

(平成17年第2回定例区議会)

一般質問

(要旨)

する必要があると認識する②区の日頃の危機管理のあり方や災害に対する取り組みを、わかりやすく提供することが重要と考える③職員による災害発生を想定した図上訓練、自衛消防隊の編成や区内の災害情報を庁内メールで周知するなど、意識の醸成に努めている。今後も地域の防災訓練への参加など意識改革を図っていく④大規模災害等は地域防災計画により職員非常配備態勢を定めている。小規模災害等については、職員住宅や近隣に居住する職員の態勢を構築し、区民に周知していく。



〈区立麹町保育園〉

日本共産党区議団 飯島 和子
(仮称) 富士見二丁目計画について

問 富士見小学校・幼稚園の用地に小学校、こども園、児童館及び地域活性化機能を持つ施設建設の計画があるが①「地域活性化機能」とは何か②地元から出された要望はいつ、どのように検討されるのか③教育的複合施設建設にPFI方式を導入する場合のメリットとは④新こども園の計画は、いずみこども園の問題点や現場の声などを検証してから行なうべき⑤幼保総合施設設置について、国の総合規制改革会議が提案している幼稚園・保育園の運営形態や幼保一元化の設置基準の規制緩和についてどう考えるか。

答 ①施設を地域に開放し、地域の賑わい創出や活性化に寄与するもの②近々に組織する地元関係者の協議会で検討していく③設計から維持管理に至るまでを民間事業者が一体として担わせることで、民間の資金や技術を有効活用でき、経費全体が縮減できるとともに、新形態の教育的複合施設として一層良質な行政サービスが提供できる④第三者評価の結果は大変良好であり、新園建設にはこの実績を生かしつつ検討していく⑤全国規模で広げるためには規制緩和が必要。

問 グループホームや生活支援ハウスなど多様な施設の中核的施設として、3つ目の

子ども医療費助成の拡充について

問 対象とならない世帯が多い児童手当制度は、医療費助成と性格が違う。要望の高い助成対象年齢の引上げを繰り返し求める。両制度を比較して、区として利用に柔軟性のある児童手当制度を選択しているのか、実施の予定はない。

答 対象とならない世帯が多い児童手当制度は、医療費助成と性格が違う。要望の高い助成対象年齢の引上げを繰り返し求める。両制度を比較して、区として利用に柔軟性のある児童手当制度を選択しているのか、実施の予定はない。

日本共産党区議団 鈴木 栄一

介護保険制度の見直しについて

問 介護サービスの重い利用負担やほほえみプラザの高い利用料など、必要なサービスの利用ができない状況に加え、保険料や利用料の負担増への区の認識や改善策は②新予防給付の導入により、ヘルパーによる家事援助サービスの原則廃止してしまおうと、要介護1など軽度の介護で維持できる方の介護度を重くしてしまうのではないのか③居住費や食費を保険からはずし、全額徴収となっているが、特養ホームを出ざるを得ない方が出るのではないのか④税制改正により住民税の65歳以上の非課税措置が廃止されるが、どのような影響が出るのか。

答 ①利用していない方も保険料を負担しているのは当然と考えるが、利用者の負担は所得に応じ上限を設け、低所得者への配慮もしている②新予防給付の家事援助は、高齢者本人の有する能力を生かしヘルパーが手助けすることで、一律に家事援助を否定するものではない③施設や住宅のサービス利用者の負担の公平性を確保するためには、居住費用と食費を保険給付対象外とする必要があると考える④単純に推計できないため、調査している。

区内3つ目の特養ホームの建設について

問 グループホームや生活支援ハウスなど多様な施設の中核的施設として、3つ目の

特養ホームの整備が必要ではないか。
答 かんた連雀の開設をもって施設整備を完了したとの認識は今も変わっていない。



〈区立麹町保育園〉

公明党議員団 大串 ひろやす

地域情報化への取り組みについて

問 ICTからICTへの流れの中で、地域情報化に対する区民のニーズは高まっている。そこで①区はどのようなビジョンを持っている。そこで②総合的に進めるための(仮称)「千代田区地域情報化計画」を策定してはどうか③今後の具体的な取り組みは。

答 ①現在の情報化指針を発展させ、利便性や住民参画などを視野に入れた改定を考えていく②地域情報化を総合的に論議していく中で検討する③(財)まちみらい千代田の実証実験に区としても協力し連携していく。

文化芸術プランの推進にあたって

問 ①文化芸術プラン推進にあたっての基本的な考え方は何か②子どもに関わる文化芸術の代表的な事業は何か。

答 ①文化芸術を創造し享受する権利の尊重や共に生きるという共生の理念を大切にしていく。区民の創意と発意、それが基本である②文化芸術鑑賞事業やアーティストインスクールなど子どもたちが自ら体験し、発見し、感動するプログラムを実施していく。

子ども読書活動推進策について

問 ①「千代田区子ども読書活動推進計画」の特色は②学校図書室の拡充策は。

答 ①三つの特色があるが、本のまちの文化を大切にしている。情報・メディアとの関連で読書を位置づける。青少年・大人の読書環境の充実である②地域やNPOなどの連携を検討会の中で重点的に検討する。

自由民主党議員団 河合 良郎

国際理解教育における英語学習の方向性と「ミッドエッジ・イン・シミュレーション」の英語の捉えかたについて

問 真の国際化とは、海外とのコミュニケーションがとれ、相手の考え方が理解でき、世界的視野で創造力に満ちた思考ができることである。日本の英語教育は大学までの10年間だが、実態は外国人と接しても会話ができない。千代田の子どもたちが国際人として世界で活躍するためには、英語は必須科目である。区は学校に英語専門家を派遣する等英語教育に力を入れてはいるが、内容が充実していない。英語による実践的なコミュニケーション能力を育成するならば、さらに進んで現行の教育制度を見直しでも対策を講ずるべき。

答 国際理解教育における英語教育は重要と認識。外国人講師等により、幼稚園や小学校ではゲームなどから英語に興味をもてるよう、中学校では会話を重視した英語教育をそれぞれ実践しており、今後も充実していく。

「国際化」における英語教育とインターネット活用について

問 メディアの急激な変化に伴い、コンピュータ社会に対応する教育の充実が必要である。インターネットを活用し世界の情報を収集する公用語は英語で、実質的に世界の共通語となっている。区立学校ではブロードバンド化が実施されていることから、ITを活用した英会話授業を区の特長として推進すべき。千代田区からコミュニケーションを行う熱意とスキルを持てる英語教育を発信していく。

答 ITを活用した海外との英会話授業についても、区の特長を生かした英語教育の推進方法として考え、内容等検討していく。